

第1回 浜松市宿泊税に関する検討会議 概要

日 時 令和8年6月10日（水）18:15～19:50

場 所 庁議室

内 容

○講演／これからの観光施策と安定的な財源確保等について

講師：蛭澤俊典委員（（公財）日本交通公社 主任研究員）

○議事／観光を取り巻く現状と観光財源確保に向けた本市の考え方について

主な意見

- ・浜松市はビジネス客が多いと思う。導入によってビジネス客が近隣都市に行ってしまう可能性があるのでは。
- ・宿泊事業者向けのアンケートは良いが、旅行者アンケートは必要なのか。旅行者は基本的に反対と回答するのではないか。
- ・浜松市では、オーバーツーリズム解消を目的とした宿泊税導入は、宿泊施設の理解を得られないと考える。
- ・湖西市との連携や宿泊事業者の税の徴収にかかる事務手間への理解、システム改修等の課題がある。
- ・使途は、浜松・浜名湖ツーリズムビューローで行っている観光体験への地域クーポンのようなものに使ってほしい。様々な観光事業者に役に立ち、地域全体が活用できるものだといひ。
- ・地方税法に基づく総務大臣の同意にはどのくらい期間が必要か。
→（事務局）他自治体の事例を見ると通常は半年弱かかる。
- ・いつ頃の導入を検討しているのか。
→（事務局）検討会議やアンケートなどで地域の関係者の意見を聞いたうえで判断していく。
- ・観光財源の確保ができるのであればどんどん進めていただきたい。始めるなら早く動いてほしいし、出来ることは協力したい。
- ・浜松市はビジネス客が多いと思うが、その比率や平日休日の割合、繁忙閑散期のデータなど、判断材料があるとよい。市が重点投資を行うにあたって、不足する財源等の数字があれば説得力があると思う。
- ・宿泊事業者の理解が肝なので、宿泊事業者の意見をきちんと聞くべき。
- ・使途も含めて、浜松市の長期的な観光施策の実施ができればいいと思う。
- ・どのような観光都市を目指し、どのような内容に使うかが重要で、免税点を含めた徴収総額のシミュレーションがあると分かりやすい。
- ・浜松市の観光振興に効果的に活用するとともに、何に使ったかを分かるようにしてほしい。
- ・導入することで宿泊施設の価格競争力が落ちる可能性や徴収に向けた設備投資、徴収コストなど、関係者の懸念事項も考慮しながら検討を進めてほしい。
- ・浜松市で財源を確保できるような検討をして欲しい。
- ・館山寺内でも旅館毎に宿泊料に差があるので、そういった部分も含めて調整して欲しい。